平成 30 年 9 月 3 日　市長定例記者会見　会見録

【司会】
はい、それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。
本日の話題は２件です。では、市長、よろしくお願いします。

【市長】
はい。
昨日の総合防災訓練は、お疲れ様でした。
様々な場所での精力的な取材、ありがとうございました。
今日、取りまとめたところ、先ほど入ってきた報告ですけども、参加者数が、官民連携ということで、多くのボランティアに参加をしていただいたんですけども、104 の団体、1,216 人の方々にご協力を頂いた、ということであります。本当にありがとうございました。

そして、もう一つ。８月 15 日にさくらももこ先生が、亡くなったわけでありますけども。私たち静岡市民の惜別の思い、そして先生の感謝への思いを表現する場所として、献花台、そしてメッセージカードを手向ける、そんな場所を用意したところ、たくさんの市民の方々が、駆けつけていただきました。
その数字も、入ってまいりましたので、お伝えをいたします。
葵区、駿河区、清水区、そして東京事務所、4 箇所に置いたわけですけども、9 月 2 日現在 2,112 枚のメッセージカードを、それぞれの思いを記して捧げてくださった、ということであります。
この数字を見ても、いかに、さくらさんが市民に愛されていたのか、ということをつくづくと感じています。
この気持ちをね、なんらかの形で、将来に向けて、感謝の気持ちをどうやって繋いでいくか。これは、これからちゃんと、行政とプロダクションの皆様と、話し合って、具体化していきたいな、と思っております。

それでは、今日の話題に移ります。
二つあります。

一つは、「平成 30 年度の９月補正予算案」についてであります。
既に先月の 30 日に、財政局から記者レクがされていると思いますので、私は今日は読み上げるだけに留めたいと思います。
今回の規模、一般会計が、約 26 億 4,900 万円。特別会計が、約 25 億 7,000 万円。企業会計が、約 1 億 4,700 万円。総額では約 53 億 6,600 万円の増額となりました。

キーワードは二つ。
「安心安全」と「地方創生」です。
一つ目の「安心安全」については、前回の記者会見で、お話をした通り“エアコン”。夏場の気温上昇から、児童生徒の健康を守り、学習環境を改善するため、来年度から３年間のうちに、市立小中学校 125 校、全ての普通教室、1,824 教室にエアコンを設置するための設計費を計上しました。

また、７月 20 日の記者会見によって、市有施設の危険または不適合なブロック塀の調査結果も発表しましたが、それらの撤去改修に要する経費も計上いたしました。
さらに、市民の皆さんの安心安全確保のため、倒壊転倒の危険性がある民間のブロック塀の撤去や、木造住宅の耐震補強に係る、補助制度の申請件数の増加を見込み、助成に要する経費を上積み計上いたしました。

一方、昭和６年に架設され、老朽化が長年の懸案だった、清水区の桜橋について、鉄道事業者、静岡鉄道さんとの協議を行ってきましたが、この度、工程や金額等が固まりましたので、架け替えに要する債務負担行為も計上してあります。

二つ目のキーワードは、「地方創生」であります。
７月に、美濃部副市長に出向いてもらいましたけども、国連のニューヨーク本部から、静岡市をＳＤＧｓハブ都市、アジア諸国では初めての自治体としてのハブ都市に位置づけられました。
これをチャンスにして、ＳＤＧｓの普及啓発活動の集中的な展開を加速化するための経費を計上しました。
まず、これも、すでに発表してありますけども、来年の１月３日、グランシップで開かれる成人式から、12 日にツインメッセで開かれる、「東京ガールズコレクション」までの間を、「ＳＤＧｓ　推進ウィーク」として位置づけ、ジェンダー・イクオリティや環境資源問題など、地球規模の課題解決に取り組む必要性を普及啓発する、そんなイベントを種々様々開催し、ＳＤＧｓ一色というか、ＳＤＧｓの認知度を市民の間で上げていく取り組みを進めていきます。

また、ＴＧＣ東京ガールズコレクションが開催されるツインメッセ静岡北館に隣接する、南館も活用し、大学や企業などによるＳＤＧｓの紹介ブースの設置や、　ＴＧＣに出演するモデルさんたちのＳＤＧｓの取り組み紹介などを実施し、連携をして、ＳＤＧｓの周知を図ります。
先週の土曜日に、これはレギュラーな場所ですけど、さいたまスーパーアリーナで東京ガールズコレクション開催をして、市の職員も何人か派遣をしましたけど、凄かったらしいです

ね。あそこは３万人、入るんですね。
私たちの２倍ぐらいの集客の器でありますけども、私どもは、ツインメッセという、北館、南館という、あつらえのハードを最大限に活かした東京ガールズコレクション。それも、東京ガールズコレクションとしては、初めての「ＳＤＧｓ推進」を高らかに謳った、そんなイベントにして、ＳＤＧｓの推進ウィークのフィナーレを飾って頂きたい、というふうに思っております。
このほか、ＪＲ 清水駅東口クライミング場のクライミングウォールについて、オリンピック競技基準を満たす施設に改修し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた、機運の醸成と清水区の賑わいの創出を図っていきます。
一方、５月に、事業撤退を表現した駿河湾フェリーの航路存続に向けた、利用拡大を図るため、環駿河地域の魅力発信と周遊観光の促進などに要する経費を計上しました。
そして、今後の健全な財政運営を確保するため、財政調整基金へ 23 億円を積み増しをします。この結果、予算額の累計は、一般会計が 3,168 億円で、特別会計と企業会計を合わせた総額では約 6,360 億円となりました。以上が、補正予算の関係であります。

二つ目の「静岡市・由比町合併 10 周年記念事業」についてであります。
10 月の 21 日の日曜日、由比生涯学習交流館において、記念事業を開催します。
テーマは、「結ぶ、繋がる」ということであります。
これは「彰往考来」。まちづくりセッションの全 11 回を貫くテーマでもあったんですが、市長室に掲げてある徳川家達さんの“書”、「彰往考来」、歴史を振りかえった上で未来を展望する、と。これがテーマであります。
つまり、10 年間いろいろあったね、という単なるセレモニーで終わりたくない、ということであります。10 年間の先人の皆さんのご尽力というものは、改めて敬意を表しつつ、10 周年おめでとう、だけではなくって、これから頑張るぞと。そっちの方に、むしろ重きを置いて、イベントを組み立てをいたしました。
歴史という縦軸と、あと官民連携という横軸を視野に入れた上で、２部構成にいたします。
まず、第１部の記念式典では、由比の伝統芸能であるお太鼓や、地元の小中学生による竹太鼓や空手などの披露をします。そして、第２部の記念イベント、これに力を入れて、将来、由比が、こんな風な夢がかなったらいいな、と言う思いを共有してもらうような、そんなひと時にしてもらいたいと思いますけども。由比という町と、結ぶという「結い」という言葉にかけて、“ゆいゆい（由比結）トーク”と。これ職員が考え出してくれましたけども、ゆいゆい（由比結）トークという記念イベントを１時間 15 分、やっていきたいと思っています。そこで、問題提起として、由比の情報発信力の強化のために戦略的に取り組んできた、“桜えびの知名度向上”、この仕掛け人である殿村美樹（とのむらみき）さん、私たちの広報アドバイザーでありますね。うどん県を香川県でプロデュースした、あの殿村美樹さんを迎えて、地元の皆さんと、そして私も加わって、由比のこれからを語り合っていきたいと思

います。由比に愛着を持つ、例えば漁師さんであるとか、例えば、広重美術館の学芸員の皆さんとか、自分たちの街を 10 年後、どんな街にしたいのか、その思いを語っていただき、そして、それを行政がどんな下支えができるのか、会場の皆さんと一体となって、これからの由比の夢を語り合い、ビジョンを共有できるトークにしてきたいと思っています。
また、会場の外では、商工会や漁港、自治会の皆さんの協力をいただき、「由比街道まつり」と「由比港（ゆいこう）浜の市」という由比の２大イベントを、この 10 月の 21 日にぶつけていただきました。
今まで、例年行われていたやつですけども、この合併 10 周年のこのイベントに、同一開催の協力をお願いをいたしまして、清水港から由比漁港まで遊覧船を走らせると。そんな新しい取り組みもして盛り上げていきたいと思っています。この機会にぜひ多くの皆さんに由比へと足を運んでいただき、由比の魅力と活力を是非取材を通じて発信していただければ大変ありがたく思います。以上です。よろしくお願いします。

【司会】
それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいですか。ありがとうございます。それでは次へ参りますが、本日は、幹事社質問は無しと伺っておりますので、早速フリーの質問に入りたいと思います。いかがでしょうか。

【市長】
なんとなく夏休み終わって全員集合という感じですね。９月初めての記者会見よろしくお願いします。

【日刊工業新聞】
昨日、防災訓練ということで、さまざまな取り組みを行ったわけですが、その後、ぶら下がりで、記者からの問いもあったと思うんですが、改めてその地震だけなくって、今、台風も迫ってますが、水害等々ですね、また２次災害の問題、さらにその避難についても長期に渡った場合にどうするか等、さまざまな課題が出てきていると思いますが、それについて、一言いただければと思います。

【市長】
“強靭な静岡市をつくる”、と言うことが、私の思いの中心にあります。
昨日の知事さんとの合同の記者会見でも申し上げたんですけれども、連携ということが一番大事だろうと思います。県はもちろんのこと国の様々な行政機関との連携をいかに有事

の時にスムーズに行うことができるか、これが肝心であります。とりわけ、受け入れの立場としての県との連携、政令指定都市と県ですので、ルールにないこともたくさんあります。そこのところをこのような訓練を重ねることによって、スムーズに連携をできるかどうか、ということが復旧復興に向けた最大のポイントだろうと。これは西日本豪雨にしても、昨年の熊本地震でも、課題として浮き彫りになったことでありますけども、そこのところをこれからも昨日の成果を一つの糧にして、強化をしていきたいというふうに思いました。

【司会】
日刊工業さん、もうよろしいですか。

【日刊工業新聞】
まだ、随分時期があるんですが、あっという間に３年半というですね、年月が経ってしまいまして、もう残り半年ということです。これから半年全力をかけて市政に取り組んでいかれるというふうに思いますが、３期目もですね、当然、今、ますます意欲が高まっているというふうに感じますので、当然、出られるというふうに思っておるのんすが、その辺、今、答えられるところでお願いします。

【市長】
新しい月なりました。１日、１日を大切に過ごして参ります。

【日刊工業新聞】
現時点では？あれですか。

【市長】
１期目に蒔いた種が、この２期目の三年半で随分芽を出してきました。
この実績というものをアピールするということは大事だな、というふうに思っています。
どんどんどんどん情報が、新しく上乗せされることを情報社会と言いますか、本当に、新聞、テレビ等を通じて、静岡のことのみならず、情報がもう洪水のようにたくさんあふれている世の中だろうというふうに思います。その中で一つ一つの情報、例えば50年来の悲願だった井川のトンネルを通す決着をしたということ、あるいは、各自治体が悪戦苦闘してる中で、政令指定都市として待機児童をゼロにして、次のフェーズに進んでいること、様々なこの３年半の実績というのを、繰り返し、繰り返し市民の皆さんに伝えていきたいなと。
一つ一つの情報ですけど、その陰には多くの職員の皆さんの頑張りがあってできたことでありますし、その取りまとめを私が行ってきた、という自負がありますので、そこのところをちゃんと現職の市長として伝えていくと、そして、日々を大事に過ごしていくということが肝要なんではないかと自戒はしております。以上です。

【日刊工業新聞】
計画自体が８年というものがあるわけですが、もうすぐ４年という、ちょうど折り返しの部分なんですが、この間、計画の見直しとか、そういったものを考えておられることとかはあるんですか。

【市長】
もちろん、ご存じのとおり、３次総の前半の最終年度ですので、この３年半で新たに周りの状況から提起されたような課題というものを後半に取り込んでいくね、いわゆるローリング作業ということは、今、しています。ＳＤＧｓとの関係もその範囲の中に入ってくると思いますけれども、そんなことはね、積極的に後期計画にどう加味していくかということは作業としてやっていきます。ただ、今まで３次総のプログラムの中でやってきた、例えばＭＩＣＥの推進という観点ですと、本当にパーンとメディアに出ちゃうと、それで忘れられちゃうのかもしれないけれども、やっぱり振り返ってみるとスペイン国王両陛下が数ある日本の誘致都市の中で静岡を選んでくださって、天皇皇后両陛下がそのご案内をいただいて、あそこで 400 年前の洋時計をお見せをするというようなね、実現をしたということは実績だろうというふうに思っています。そんな簡単なことではなかった。職員が、何度も何度も外務省と折衝をして、官民連携の中で日本スペインシンポジウムというものを誘致をしてきた積み重ねの中での昨年の春の天皇皇后両陛下のご来静だったというふうに思います。こういう実績というものを、やっぱり一つ一つ丁寧にね、繰り返し語っていくということが私の使命なのではないかな。もちろん、何回も言いますけど、私一人ではない、市の職員が頑張ったと、そして民間の方々と連携をしてきたと。商工会議所をはじめとしてね。本当にオール静岡市で少しずつ。僕は、ビジョンはあるんですね。「世界に輝く静岡市の実現」と「ワールドクラスの静岡市」。その私の指し示したビジョンに向けて、本当に少しずつではありますけれども、芽が出てきているなということを訴えていきたいなと思っています。ぜひ報道してください。

【日刊工業新聞】
何といいますか、計画自体はですね、非常にわからないことはないですが、どうしても指摘される行為の中で、例えばカジノ法案の問題とかですね、その目玉的なインパクトのあるものがなかなか、防災としては先進地である静岡であってもですね、そういうそのインパクトといいますか、そういう目玉的なものがないと。

【市長】
ないですか？

【日刊工業新聞】
いや、そういう声は、結構あるものですからね。計画自体はもう少し、繰り返し、繰り返し、先ほどの防災の部分でも発信していく必要はあると思うんですが、今、例えばそのいわゆるキーワードになっているのが人工知能とかですね、ＩｏＴとか、ロボットとか、こういう部分がこれから日本ですね、これから大きなカギとなっていく部分でもあるんですが、一つには静岡に来るという、そのカジノがいいというわけではないですけどね、その人口が全体的に減っていく中で、70 万というですね、非常に厳しい目標があるわけですね。
そのために、この計画を着実にもちろん推進することは非常に重要なことだと思うんですが、たとえば人工知能であればですね、今、日本はアメリカや中国に比べて非常に遅れてるわけですね、開発が。まあ、日本だけを捉えればその拠点を開設するのが、まあ人材確保という意味でもですね…

【司会】
端的にお願いします。

【日刊工業新聞】
ごめんなさい。例えば、その発想を変えてアメリカの大学から優秀な人材を引っ張ってくるとかですね、他とはちょっと違う部分、これをですね、分からせやすい形で打ち出す必要があると思うんで、その辺の発想はあまり無いんじゃないかという声がですね、声が聞かれるんで、その辺のところを一言。これで終わりにします。すいません。

【市長】
はい、ありがとうございます。あのいいアイデアを頂いたなと思っています。高等教育の在り方検討会をやっているのも、広くね、世界から人材を集めたいという思いがあっての検討のはじまりで、そういうことをおっしゃる、とりわけアジア諸国からはね、そういう人材を集めて来れるような、そういう高等教育機関、すごく安全安心な治安のいい静岡市で暖かな気候ですのでね、あるということを主張される委員の皆さんがありますので、そんなアイデアの中でね、この高等教育の在り方、市民に対するリカレント教育、今日もリカレント教育について、新聞の記事がありましたけれども、リカレント教育の場所の提供というだけではないね、そういう世界中から人を集めるというようなことの発想も、ぜひ今のアイデア、ぜひお借りしてね、インパクトの大きなものをプロデュースしていきたいなと思います。
ただ、ジャーナリズムというのは、行政に対する批判精神を持つと、チェックをするということも、大事な役割だと思いますけど、私自身がすごく感じていることは、実は本当はこれ、すごいことなんだよと。本当は、ものすごい努力の結晶、長い時間の尽力があって、これでやれてるんだよ、ということを市民の皆さんに伝えることの難しさというものも感じています。

先程、ＩＲとの絡みの中ではね、例えば、競輪のグランプリというものを、今年 12 月に静岡市にもってくるんですけれども、これ本当にすごいことなんです、競輪界にとって。
箱根の山を越えて、今まで既得権益で、三つの平塚、調布、立川で独占していたのを静岡市が開催できるようになったということは、本当に悲願だったんですね。これがＭＩＣＥの推進ということになってくるわけなんですね。
なんだ、公営ギャンブルの全国大会か、だけではなくて、これが、これから競輪だけではない、環境や健康に優しい自転車を大事にする都市づくりという３次総の流れの中でも位置づけて、何とかこれを引っ張ってきたということ。
そして、スーパーアリーナでやった東京ガールズコレクションを、ツインメッセで、とにかく静岡で初開催をするということ。それに、静岡でやる以上、「ＳＤＧｓ」という冠をつけてほしいと。それで、私共と東京ガールズコレクションの主催者が意気投合した、ということ。それは、私が国連に行ったからなんですね。国連に招かれて、そして行った。そのことで、共通体験、渡辺直美さんなんかもね、一緒に連れてって行ってきたわけですけれども。EXILE の USA（ウサ）とかね。そういったところで、国連のニューヨークで、クールジャパンをアピールできた。そんな共通項で、初めてのＳＤＧｓ推進東京ガールズコレクションっていうのを静岡でやると。これも、すごいことないんですよ。そのことを是非ね、読者の皆さんとわれわれ行政と真ん中に立ってね、私たち、批判はいつでも受けますけれども、市民の皆さんにお伝えをいただきたいな、ということお願いいたします。
市の職員、本当に頑張っています。決して役所仕事ばかりではありません。

【司会】
朝日新聞さんどうぞ。

【朝日新聞】
近々、強い台風が来るようなんですけど、なんかいつもの台風の備えと違いがあるのかどうか。

【市長】
今までの積み重ね中で、万全の準備をしてきたいと思っています。
何回も言うようですけれども、あの本当にこれも報道機関との連携ということがすごく大事でありますので、今日、（危機管理）統括監、昨日の防災訓練の責任者でありますけども、迅速に、気象庁、国土交通省並びにさまざまな機関から入ってきた情報をお伝えをして、早め早めの情報提供に努めたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。
（危機管理）統括監、一言あれば。

【危機管理統括監】

台風に関しましては、まだ、詳細な情報をまだつかんでおりません。本日、気象台の方から説明がありますので、それに基づきまして、庁内の警戒本部を開催しまして、今後の対応について、タイムラインを含めてですね、今日中に話を詰める予定でおりますので、また、それにつきましては、逐次、報道のほうにもご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。ご協力をお願いいたします。

【朝日新聞】
質問、替えます。自民党で、今、総裁選が実際始まっていますけれども、地方の首長にとってはですね、どちらの候補が地方の発展に繋がるメリットがあるとお考えでしょうか。

【市長】
それは、地方創生を大事にしてくださる候補者だったら、どなたでも大歓迎です。

【司会】
よろしいですか。他にございますでしょうか。
はい、読売（新聞）さんどうぞ。

【読売新聞】
先日、市が初めて行った３次総の政策評価の会議が、報告が、市長に提出されたと思うんですけども、かなり報告書の内容とまたちょっと違ってですね、委員の方からかなり厳しい声が、市職員に対しても市長に対しても出ていたかと思うんですけども、改めて報告書とですね、あの委員の方からの直接の声を聞いて、市長からの受け止めをちょっとお願いしたいんですけども。

【市長】
あの、私がいる場所でね、最終的に、率直な厳しい意見をおっしゃっていただいたということは、大変ありがたいことだったなというふうに受け止めております。
ただし、これが本音なのか、ということを率直に感じた中で悔しかった。
市の職員とこの悔しさを共有して、私たちの行政経営というのは、企業経営とは違うけれども、私達になりに、民間のノウハウ、経営手法というものを取り込みながら、新しい公共経営、ニューパブリックマネージメントに取り組んでいるんだということを、これも一生懸命、私はいろんな場所で伝えているつもりですけども、市民の方々には伝わりきれていないと。
ルールオリエンテッドではなくて、バリューオリエンテッドの姿勢に転換をしているんだ、ということを訴えているわけですけれども、そこのところも、まだまだなんだな、ということを今回、痛感をしましたので、訴えていかなければいけないな、と思いました。
本当に、事務局主導のね、予定調和的な評価委員会ではない、ＰＤＣＡを回すっていうのは、

本来、これでいいんだろう、と思います。全て 100%達成可能な公約だけを掲げて、シャンシャンで終わるということでなくて、やっぱり厳しい評価をいただくということが次の改善につながるわけなので、ＰＤＣＡ、チェックで厳しいことを言われたことを、次のアクションで、どう前向きに職員と一緒に進めていくかと。
次は、委員の皆さんに自分が厳しいことを言った意味があったな、というふうに振り返っていただけるようにしていきたいな、というふうに思っています。

【司会】
はい、どうでしょうか。よろしいですか。
記者の皆様、ありがとうございました。本日の定例記者会見終了させていただきます。
次回、9 月 20 日木曜日の午前 11 時からとなりますので、よろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。